



ほんものを たべよう **B**

Alter Weekly Order Catalogue

2024.2月2週号

提出日	1/	火	水	2/	木	金
	30	31	1	2		
配達日	2/	火	水	木	金	
	6	7	8	9		
翌々週分配達日	2/	火	水	木	金	
	13	14	15	16		

オルターの提案

本当に安全な食べものを手渡すために

- 「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
- 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
- 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
- プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

化粧品

肌のバリアゾーンを守る化粧品

敏感肌も対応

東京美容科学研究所

文責 西川 榮郎 (オルター代表)

TO BI KENの敏感肌対策アイテム

おそらく、世界一肌の科学がよくわかっている化粧品会社として、肌に優しい技術と品質の高さを認め、オルターが推奨している「ゼノア化粧品」の製造元会社である「東京美容科学研究所」から新シリーズ「TO BI KEN」が発売されました。

新シリーズ「TO BI KEN」は現在、基礎化粧品シリーズで、その使用対象は、「CARE (敏感肌)」「BASE (普通肌)」「ADVANCE (年齢肌)」に分かれています。特に昨今、他社の化粧品が原因で拡大している「敏感肌」「トラブル肌」の対策に力を入れています。

化粧品を使う前に

東京美容科学研究所 (ゼノア化粧品) や化粧品全般については、拙著「あなたのいのちを守る安全な食べもの百科①」p.273にわかりやすく解説していますので、ぜひご参考にしてください。

また、東京美容科学研究所 小澤 貴子代表の著書「賢い化粧品の選び方」も、買ってはいけない化粧品の裏側情報をよく解説されていますのでおすすめです。

「天然系」「オーガニック」「無添加」「アミノ酸」「美白」「アンチエイジング」などという言葉に騙されないように。化粧品は肌にとって、良いか、安全かがポイントです。

化粧品を使っている顔の肌の方が、身体他の肌より一番荒れているというような化粧品には要注意です。

基礎化粧品以外のメイク・ヘアケアなどは従来通りゼノアシリーズとして、ラインナップされています。

また、かつてオルターが「微量だがアスベストを含むので、タルクを使用しないように」と申し入れた「酸性パウダー」についてもその改良が完了しています。

肌のバリアゾーンを壊す化粧品は危険

東京美容科学研究所の化粧料の第1の特長は「肌のバリアゾーンを壊さない」ことです。肌に良い化粧料であることが最大のポイントです。また、



東京美容科学研究所の小澤 貴子代表 (後列の右端)



肌をいたずらに過保護にすることなく、適度な刺激を与え、健康肌を獲得していけるようにも考えられています。

合成界面活性剤、合成ポリマーに注意

そのため、肌のバリアゾーンを破壊する合成界面活性剤のような毒物は使用していません。とくにぷるんぷるんになると若返りを謳うアンチエイジング化粧品の場合のように、合成界面活性剤で肌のバリアゾーンを突破し、肌の中に合成界面活性剤と水を注入し、仮の肌のうるおいをもたらす、更にそれを合成ポリマーの被膜で覆い、水の蒸発を防ぐ、というカラクリは認めていません。

人工皮脂の上で化粧

その第2の特長は、自然の皮脂に近い性質の人工皮脂・クリームで肌を覆い、メイクはその上で行うという考え方です。またメイクアップ化粧品に使う色素についても、毒性の強いタール系色素やレーキ色素は使用せず、地質顔料、天然顔料などを使っています。

オーダーメイドのような品質

その第3の特長は、販売している化粧料のほぼ全てを自社工場で熟練した職人たちによって手作りしていることです。そのため細部まで目が届き、納得する品質が保たれています。

一部大手の化粧品会社が自社工場を持っている

以外、全国に約4000社以上ある化粧品会社は、たった数十社の下請工場で粗悪な原料で化粧品を生産しているのとは対照的です。

わかりやすい使い方

東京美容科学研究所の化粧料は、以前より簡便に使えるようになっています。例えば必ずしも蒸しタオルを使わなくても使えます。

詳しい使い方は使い方セミナーでご案内します。(セミナーの内容は録画し、会員サイトで公開します。)

90年の歴史

東京美容科学研究所は、小澤 貴子代表の祖父、小澤 王晃初代によって1933年に創業されました。貴子さんの父、小澤 王春二代目は化粧品に関する「化粧品毒性判定事典」を著し、文字通り、化粧品の国内の理論的第一人者でした。

小澤 貴子代表は大学で化学を学び、大学院で講師を務めたあと、祖父・父の志を継ぎました。

